



不登校の児童生徒の保護者のみなさんにお便りします

やまびこ



兵庫県立但馬やまびこの郷
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~yamabiko-bo/>



但馬やまびこの郷
平成21年1月
第25号

やまびこフェスタから

昨年10月26日(日)、但馬やまびこの郷を会場にして、平成20年度但馬やまびこの郷県民交流事業「やまびこフェスタ ～心の虹を未来へ～」を開催しました。

当日は、地元の朝来市山東町の皆さんをはじめ、県下各地から350余名の方々にお越しいただき、大盛況の1日でした。

講演では、中学校時に不登校であった大学生の方と不登校のお子さんとともに歩まれた保護者の方からそれぞれお話をいただきました。

お二人のお話に共通したことは、「信じること」と「わかってもらえること」の大切さでした。お話の一部を紹介します。



●大学生による体験談より

私の両親は、とにかく信じてくれました。何があっても信じてくれました。

私が嘘をついて「しんどい」と言うたびに、病院に何度も連れて行ってくれました。その都度、「全く原因が分からない」と医者から言われても、「何かの病気であるはずだ」と信じてくれていました。そこまで信じてくれたことを今でもうれしく思います。

不登校生というのは、親戚や皆に責められ、孤独を感じています。だから、両親だけでも信じてくれていたことが大きな支えでした。

中学生の時、やまびこに来て、同じ不登校の子がたくさんいたのでびっくりしました。みんな、色々な思いを抱えていました。その内に秘めた思いは、なかなか家などでは話せないのですが、同じ不登校同士なら話せることも多くありました。

「分かってもらえる」ということが、私は何よりも嬉しかったことを覚えています。

●保護者による体験談より

保護者の皆さんに伝えたいことは、「一人で頑張らないこと」です。

力を抜いて、自分の時間を大切にすることです。お母さんがリラックスすると、子どもも楽になります。自分を責めたりしないでください。親が自分を責めたりしていると、子どもが自分のせいだと思い、自分を責めてしまうようになります。そして、大切なことを見失ってしまいます。しかし、24時間、ずっと子どもに誠心誠意寄り添っていると、共倒れになってしまいます。スポーツや趣味など、自分の時間を持ったり、親戚に理解を得たりしながら、心をやわらかくしてください。

自分の子どもを自慢する親ではなくて、「子どもを信じてやれる親」になりたいと思います。

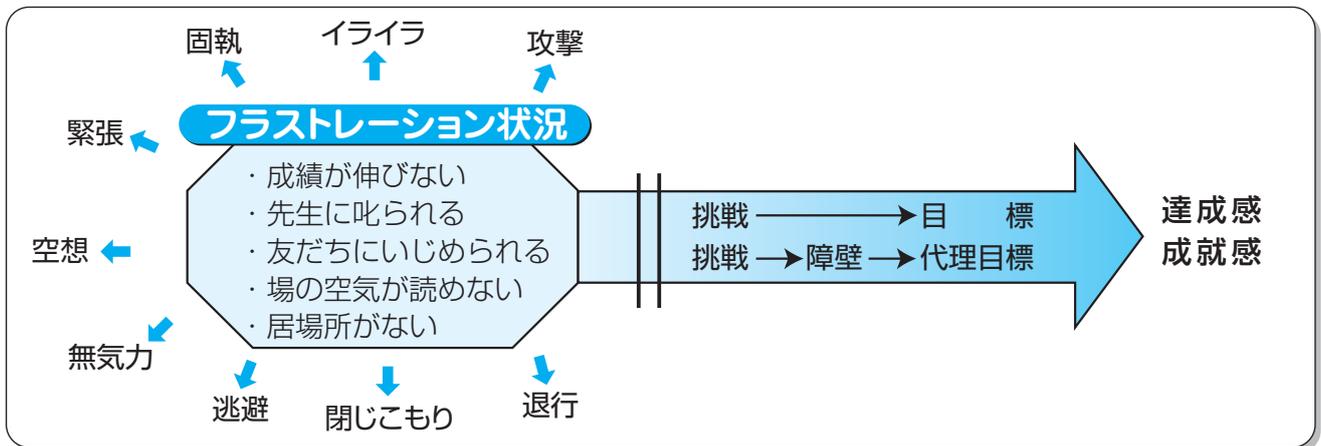


スーさんのちょっとセミナー…

「家庭での子どもへの働きかけ」 連載その2

反抗する子ども・ 暴れる子ども

不登校は、一般的には、①心身症的時期 ②反抗・暴力の時期 ③怠惰・内閉の時期
④登校準備の時期 ⑥立ち上がり・再登校の時期へと進行していくとされています。
前は「子どもの心身の痛みとその理解」についてお話ししました。
今回は反抗・暴力の時期について考えてみましょう。



上の図を見てください。

心理学では、人が欲求不満を抱くことを「フラストレーション」と言っています。人間は誰でも、嫌なこと、辛いこと、困難なことなど、心に傷を受けるような体験が毎日続くと現実から逃避したり、攻撃的になってキレたり、幼児がえりしたりする存在です。

上の図で説明しますと、人が目標を決めてこれに挑戦し、その目標を達成すれば成就感や満足感が得られ、快感が起こってくるのですが、心と身体のエネルギーの流れが「||」の部分でせき止められると、そのエネルギーは五月雨的に矢印の方向に向かいます。

不登校の子どもたちの生育歴をみますと、第一反抗期が無く、素直でぐずらない「よい子」として育ってきた子どもたちが多いようです。そんな子どもたちが、小・中学生になって、成績が伸びない、先生に叱られる、友だちにいじめられる、場の空気が読めない、居場所がないといった体験をすると、家に閉じこもるようになります。一番辛い思いをしているのは、保護者もさることながら、子どもたち自身です。

ストレスが引き金となって、まず、頭痛や腹痛を訴える「身体化現象」が起こり、続いて、言動が乱暴になる「行動化」が起こります。この段階を経て、次には、自分のフラストレーション状況をはっきりと自己表明する「言語化」が起こってきます。この時期になると、子どもは心身共に安定し、行動や態度もしっかりとしてきます。

こうしたプロセスを経て、はじめて子どもたちは、保護者や先生に支えられながら自分の

人生について考え始め、将来の夢や進学先等の進路を自らの意志で決定していきます。

したがって、不登校における「反抗・暴力の時期」というのは、とにかく保護者や先生方には困った行動として受けとめられやすい時期ですが、子どもが言語化を通して、自立性と自律性を身につけていくための一つの通過儀礼としてとらえることができます。

但馬やまびこの郷を利用された保護者も、家庭での我が子とのかかわりにおいて、保護者自身の変化を次のように話されています。

- ・自分の意見を言う前に、まず子どもの意見に耳を傾けるようになった
- ・子どもと同じ目線で接するようになった
- ・自分の子どもを一人の大人として尊重し、接することが出来るようになった
- ・感情的に叱ることがほとんどなくなった
- ・子どもが心身ともに健康であれば、何とでもなるという心の余裕が出来た
- ・子どもを信じてやれるようになった

但馬やまびこの郷は、子どもたちが再登校を目指して、仲間たちやスタッフと共に料理を作り、自転車で地域に出かけ、木工や七宝焼きなどの製作をし、水泳やスキーや球技で身体を鍛え、勇気・やる気・元気が出てきたときに、学習に取り組むようなプログラムが組まれています。

但馬やまびこの郷では、このような生活環境療法として、スタッフ、本人、保護者、担任、適応教室の指導者等が体験活動を共有することにより、お互いに成長していくことができます。

スーさんも、子どもたちや保護者の皆さんから、生きることや学ぶことの意味を教えられている日々です。

スーさんのプロフィール

本名は、杉村省吾。

平成20年4月、兵庫県立但馬やまびこの郷 第三代所長に就任。

- ・武庫川女子大学文学部・大学院教授
- ・兵庫県臨床心理士会副会長

ものづくりや楽しい冗談（ダジャレ）が大好き。

右の写真は、活動「料理を作ろう」で、子どもたちと餃子づくりをするスーさん。



相談・一日体験について *...*...*...*...*...*...*

但馬やまびこの郷の利用は、月曜日から金曜日までの4泊5日を原則としていますが、1泊2日や2泊3日等、児童生徒の状況に合わせた利用ができます。また、見学や相談、1日だけの活動体験等、いろいろな利用もできます。保護者を対象とした「相談」も受け付けています。



〈地域やまびこ教室
保護者交流会より〉

“地域やまびこ教室”や“不登校をともに考える会”での保護者交流会では、不安や悩みを実際に話されることにより、「悩んでいるのが自分だけではないということが実感でき、心が落ち着いた」「みんながんばっておられることがわかり、元気が出た」等の感想をいただいています。

ぜひ来所いただき、次のステップ(方向性)について、ともに考えませんか。事前に電話でご連絡ください。

(TEL 079-676-4724)

ひょうたん星人、出現!

当所における宿泊体験活動(4泊5日)のプログラム2日目午後、「地域と交流しよう」という活動があります。当所周辺(山東町内)でサイクリングやウォークラリーをしたり、地域の方を講師としてお招きし、蒟蒻コンヤクやしめ縄飾りなどを作ったりしています。

気持ちよく晴れた秋のある日。散策中に立ち寄った近くのよふど温泉に、「かかし祭り」の案内がありました。

ひとりの子が興味を示し、「出品する!」と意欲満々。

プログラム3日目の午前に行う「製作活動等の文化活動」の時間を利用して、さっそく製作を開始しました。

その後、当所を利用するたびに少しずつ製作を進め、できあがったのが右写真の「ひょうたん星人」。当所で栽培したひょうたんを使ったかかしです。



審査では、努力賞をいただき、スタッフ共々、大喜びしました。

子どもの示すちょっとした興味・関心をキャッチし、「一緒にやろうね」と気持ちを合わせながら工夫を重ねたり、完成した喜びを分かち合ったりすることにより、子どもの前向きな気持ちを培っていく当所ならではの活動となりました。

冬のやまびこ

冬。当所の活動「遠くに出かけよう」は、スキーやスノーボードといった活動が中心になります。

鉢伏の広いゲレンデで、一日、仲間やスタッフと一緒に思いっきり楽しんでみませんか。

スキーが初めてでも、みんなといるから大丈夫。午後には、多くの子がリフトに乗り、滑走を楽しみます。

ぜひ、この冬、但馬やまびこの郷を利用して、白銀の中で新しい自分を見つけてみませんか?

スタッフ一同、お待ちしております。



まずは基本から



雪原で寝転んでも気持ちいい



雪が舞っても平気だよ

